

多様な主体の参加促進による海外における森林保全・復旧の促進

— その取り組みと実施体制 —

近年、森林による炭素吸収・蓄積の役割が改めて評価されるとともに、生物多様性の保全や回復にも配慮しながら森林保全活動を実施すること等について、国内外の関心・期待が高まっていますが、これを具体的な活動に結び付けていくことが課題となっています。

特に、熱帯地域を中心に広がる荒廃地については、森林の再生や劣化林の質の向上を図るとともに、保全すべき森林への人間の生活活動による圧力を軽減することが必要です。これらを早急かつ確実に実現するためには、地域における住民の理解・参加を促し持続的な森林経営を実現することに加え、NGO や民間企業等の多様な主体による活動参加を促すことが重要となります。

国際緑化推進センターでは、平成3年の設立以来、「熱帯林の調査・研究」、「情報の収集・提供と国際緑化推進の普及・啓発」、「人材の養成」、「NGO・民間企業の国際緑化活動支援」、「熱帯途上国での植林」を5本の柱として、それらを有機的に結び付けながら、我が国の民間部門による海外での植林・緑化活動の推進に取り組んでいます。

